

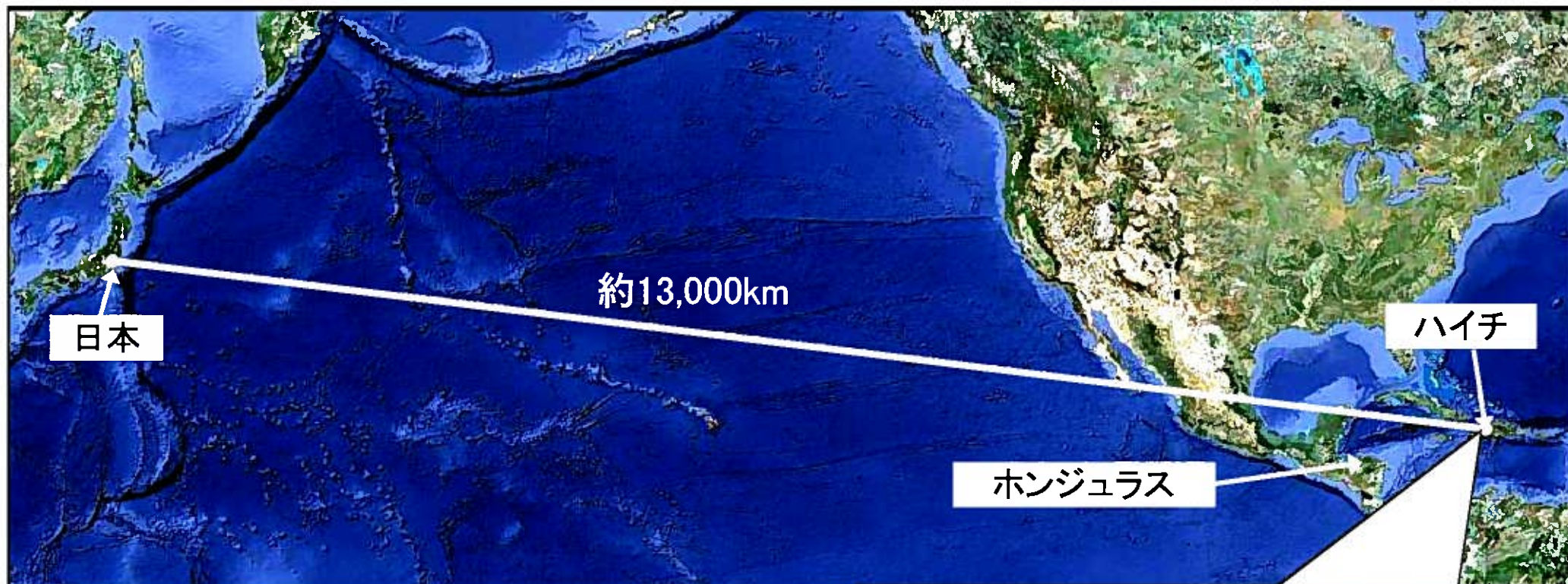
(防衛問題セミナー資料)

ハイチにおける自衛隊のPKO活動について

防衛省運用企画局国際協力課

平成 2 2 年 6 月 3 0 日

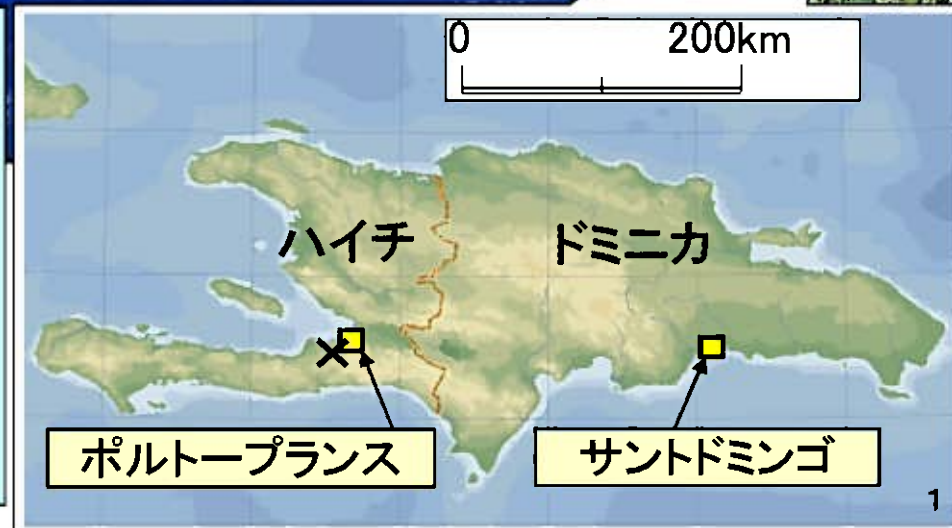
ハイチ共和国



<ハイチ共和国の概要>

- 1 面積: 約28,000km²
- 2 人口: 約961万人
- 3 首都: ポルトープランス
- 4 言語: フランス語、クレオール語

※ 日本から約13,000kmという遠方に位置し、時差は、
-14時間



ハイチ大地震の被害状況等



- ◇ 地震発生時刻：1月13日早朝（日本時間）
- ◇ 震源地：首都ポルトープランス郊外約15km
- ◇ 震源の深さ：10km
- ◇ 地震の規模：M7.0

【被害状況：3月18日時点】

- ◇ 死者：約22万人以上
- ◇ 負傷者：30万人以上
- ◇ 被災者：370万人（総人口961万名）

【治安状況】（地震発生から約2ヶ月後の状況）

- ◇ 国連PKO（MINUSTAH）、米軍、警察が治安維持に努力
- ◇ 全般に安定。但し、散発的な犯罪行為（暴力行為、窃盗等）が発生



【インフラの状況】（地震発生から約2ヶ月後の状況）

- ◇ 電気：一部は復旧（首都の約半分再開）
- ◇ 水道：停止（但し、一部は復旧）
- ◇ 電話：制限（携帯は使用可、固定は不通）
- ◇ 道路：諸処損壊

ハイチ地震とチリ地震の状況の相違

【ハイチ震源地付近】



【チリ震源地付近】



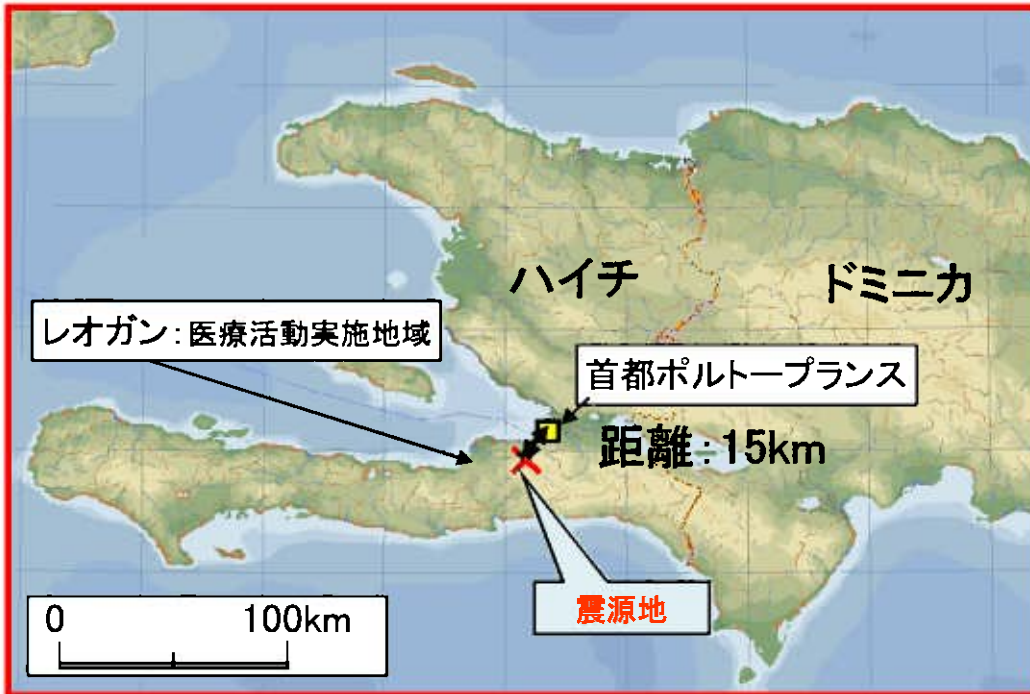
【ハイチ地震規模】

- ◇ 発生日時 : 1月13日
- ◇ マグニチュード : 7.0
- ◇ 震源の深さ : 10km

【チリ地震規模】

- ◇ 発生日時 : 2月27日
- ◇ マグニチュード : 8.8
- ◇ 震源の深さ : 35km

ハイチ大地震の発生後の自衛隊による対応の概要



レオガンでの医療活動の様子

【自衛隊によるハイチ大地震への対応経緯】

- 地震発生翌日、ハイチに向け、情報収集要員2名を派遣
- 1月15日、防衛大臣より、国際緊急援助活動の準備命令発出
- 1月18日、C-130H輸送機により、JICA医療チームのマイアミからハイチまでの輸送を実施。帰りの便で、ハイチからマイアミへの被災民の輸送を実施
- 1月21日、自衛隊の医療部隊がハイチに向け出発。23日、現地にて医療活動開始。
- 1月25日、防衛大臣より、ハイチにおけるPKO活動の実施に関する準備命令発出
- 2月5日、ハイチPKOの実施に関し閣議決定。翌6日、自衛隊の施設部隊要員がハイチに向け出発
- 2月14日、医療援助隊の活動終了
- 2月16日、自衛隊施設部隊、現地にて施設活動開始

※ 現在、自衛隊は、約350名の要員をハイチに派遣中。

中南米での自衛隊による国際平和協力活動は、平成10年に発生したホンジュラスのハリケーンに際しての国際緊急援助活動以来。

ハイチにおける自衛隊による国際緊急援助活動の実施について



実施業務の概要

C-130H輸送機による輸送

- ・ 米国マイアミにあるホームステッド空軍基地を拠点とし、マイアミ～ハイチ間の輸送を実施。
 1月18日に、JICA国際緊急援助隊医療チームを輸送、その復路において在ハイチ被災民34人を米国へ輸送。
 じ後、自衛隊の医療援助隊の要員・物資の輸送等を実施。

医療援助隊による活動

- ・ 1月23日、医療援助隊が、レオガン市エписコパル看護学校において、医療活動を開始
 2月14日をもって医療援助活動を終結するまでの間、計2954名の患者を診察。

空輸隊等

マイアミ



医療援助隊
 ●約100名(うち医官約13名)



ハイチ

レオガン

ドミニカ

国連ハイチ安定化ミッションの概要

1 経緯

ハイチにおいては、2000年の選挙を巡り、情勢が悪化。アリスティッド前大統領に反対する暴徒や組織犯罪集団等によるハイチ国内の政治的・社会的混乱が生じたため、2004年6月、ハイチ情勢安定化のため、安保理決議に基づき、国連ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH)が設立された。

2 任務

- ① 安全かつ安定的な環境の確保(警察・沿岸警備隊への支援等)
- ② 政治プロセス支援(選挙の支援等)
- ③ 人権(人権促進・人道状況の監視及び報告等)

3 各国の派遣概要(2009年11月現在)

- ・ 47カ国より約9000名(軍事要員約7000名、警察要員約2000名)
 - ※ 派遣元の上位5カ国と人数は、ブラジル1283名、ネパール1244名、ウルグアイ1136名、ヨルダン1053名、スリランカ961名
- ・ ほか、国内外より計約1900名の文民、国連ボランティアが参加

国際連合ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH)への派遣の経緯

- 1月13日(水) ハイチにおける大地震発生
1月19日(火) 国連安保理決議1908によりMINUSTAHの増員が決定
爾 後 国連事務局により各国へ部隊派遣の要請
1月25日(月) 国連事務局に対し自衛隊施設部隊の派遣の用意がある旨意思表示
同 日 防衛大臣より各幕僚長等に準備指示の発出
1月27日(水) 3名の調査チーム(内閣府PKO事務局1名含む)の派遣
1月29日(金) 国連事務局より自衛隊施設部隊の派遣について正式要請
2月 5日(金) 「ハイチ国際平和協力業務実施計画」等について閣議決定
同 日 「ハイチ国際平和協力業務の実施に関する自衛隊行動命令」発出

国連安保理決議(1908)の内容

- ハイチ大地震による全ての被災者と家族に深い同情と連帯を表明し、事態の深刻さと緊急の対応の必要性を認識。
- 当面の復旧・再建・安定化努力を支えるためMINUSTAHの全体規模を増員するとの事務総長の勧告を支持。
- 軍事部門の要員数を2,000人増の8,940人、警察要員を1,500人増の3,711人とすることを決定。

国連の要請と我が国の意思表示

- 国連は
 - ① 警護を実施する歩兵部隊
 - ② 瓦礫の除去、道路補修等を行う施設部隊
 - ③ 大型輸送ヘリコプターについて各国に派遣を要請。(1月19日)
- 我が国として、上記②の施設部隊(約190名)と同部隊を支援する要員(約160名)を派遣する用意がある旨通知。(1月25日)
- 国連より我が国の申し出に感謝し、これを喜んで受け入れたい、可能な限り早期に派遣して欲しいとの回答。(1月29日)

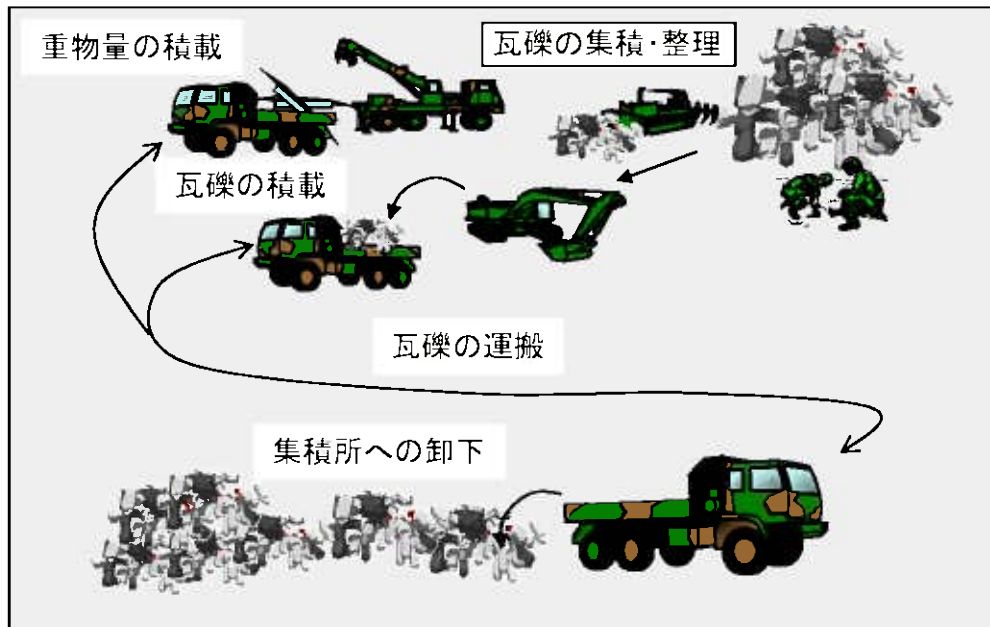
※ 日付は全て日本時間

ハイチ派遣国際救援隊の概要

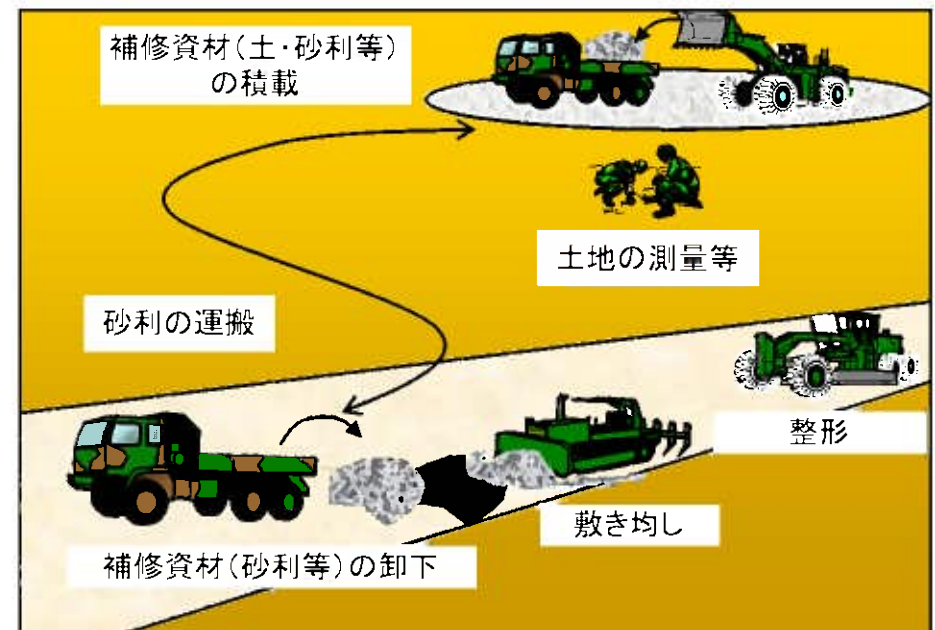
- 種類： 施設部隊(工兵)
規模： 約350名 (うち国連要員約190名、自隊支援要員160名)
装備： 車両約150両を予定
武器： 護身用武器(拳銃・小銃・機関銃)
活動内容： 瓦礫除去、被災民キャンプ建設用地の整地、道路補修、軽易な施設建設等
活動地域： ポルトープランス周辺
活動期間： 平成22年2月5日から平成22年11月30日まで

(※) 国連からの要請である6ヶ月間に撤収作業期間(3ヶ月程度)を加えたもの。

【瓦礫の除去作業のイメージ】



【整地のイメージ】



活動拠点の位置(ポルトープランス市内)

- MINUSTAHに参加している各国軍等の合同宿営地の近接地
- ブラジル、チリ、エクアドル等の部隊、WFP(国連世界食糧計画)など駐留
- 空港から南東5km(車で10分。モンケット地区。)
- 市中心部からみると郊外、治安安定
- 在ハイチ米国大使館の近傍



派遣部隊の規模及び装備等について（実施計画に規定）

○ハイチ派遣国際救援隊（約350名）

車両：約150両 拳銃：54丁 小銃：305丁 機関銃：7丁

※ 車両内訳：ドーザ・油圧シャベル等施設機材約40両、トラック・トレーラ約90両、軽装甲機動車等20両



中型ドーザ



油圧ショベル



軽装甲機動車



89式小銃



5.56m機関銃 (MINIMI)

○海上自衛隊輸送部隊（約540名） 輸送艦1隻、補給艦1隻及び護衛艦1隻（当面の展開では活動せず）



輸送艦



補給艦



護衛艦

○航空自衛隊輸送部隊（約200名）C-130H 2機、U-4 1機、KC-767 1機、政府専用機1機



政府専用機



C-130H



U-4



KC-767

ハイチPKOにおける自衛隊部隊の展開と編成について

○ 1次要員の展開

- ・ ハイチ地震災害の復旧支援という性格から迅速な展開を実施。
- ・ 緊急展開が可能な中央即応集団の要員(約200名)を1次要員として派遣。
- ・ 1次要員は現地到着後速やかに施設活動を開始しつつ、宿営地の造成を実施。

○ 2次要員の展開

- ・ 活動の主力となる北部方面隊では、装備の緊急取得、緊急整備等により準備期間を短縮。
- ・ 輸送機・民間船舶のチャーターにより、命令発出後20日あまりで現地に向けて展開を開始。
- ・ 3月19日より1次要員と交代し、本格的な施設活動を実施。

【編成の概要】

約350名

ハイチ派遣国際救援隊

隊本部

連絡調整・広報など

このうちMINUSTAH施設の耐震診断を実施する技官(3名)を派遣

施設器材中隊

ドーザ・油圧ショベル等
大型重機主体の部隊

施設中隊

マンパワー主体の部隊
(ドーザ等重機は少数)

本部管理中隊等

部隊の生活基盤を整えるための部隊

主要
装備



中型ドーザ



油圧ショベル



グレーダ



バケットローダ

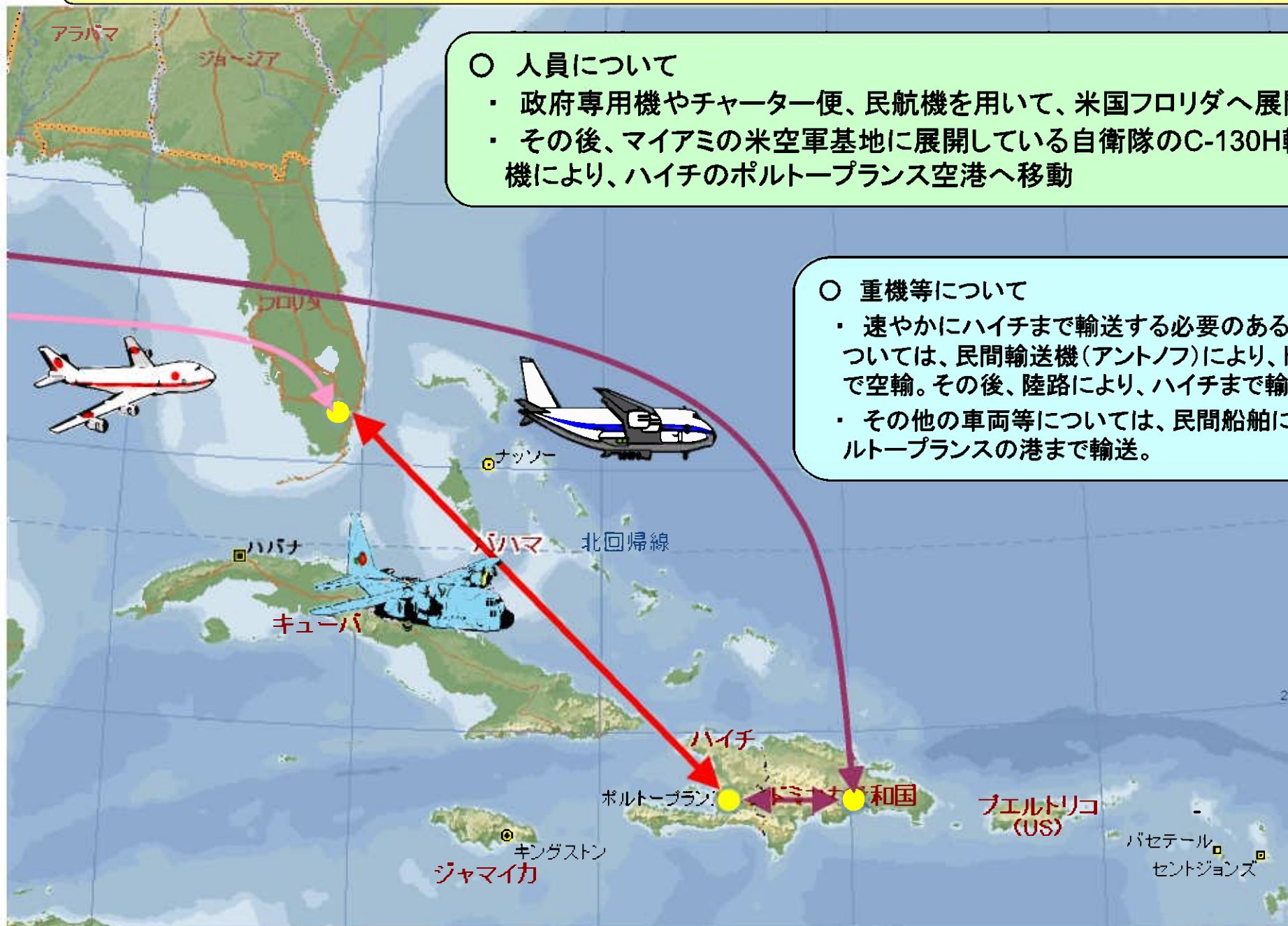
ハイチへの自衛隊部隊の展開要領について

○ 人員について

- ・ 政府専用機やチャーター便、民航機を用いて、米国フロリダへ展開。
- ・ その後、マイアミの米空軍基地に展開している自衛隊のC-130H輸送機により、ハイチのポルトープランス空港へ移動

○ 重機等について

- ・ 速やかにハイチまで輸送する必要がある重機等については、民間輸送機(アントノフ)により、ドミニカまで空輸。その後、陸路により、ハイチまで輸送。
- ・ その他の車両等については、民間船舶により、ポルトープランスの港まで輸送。



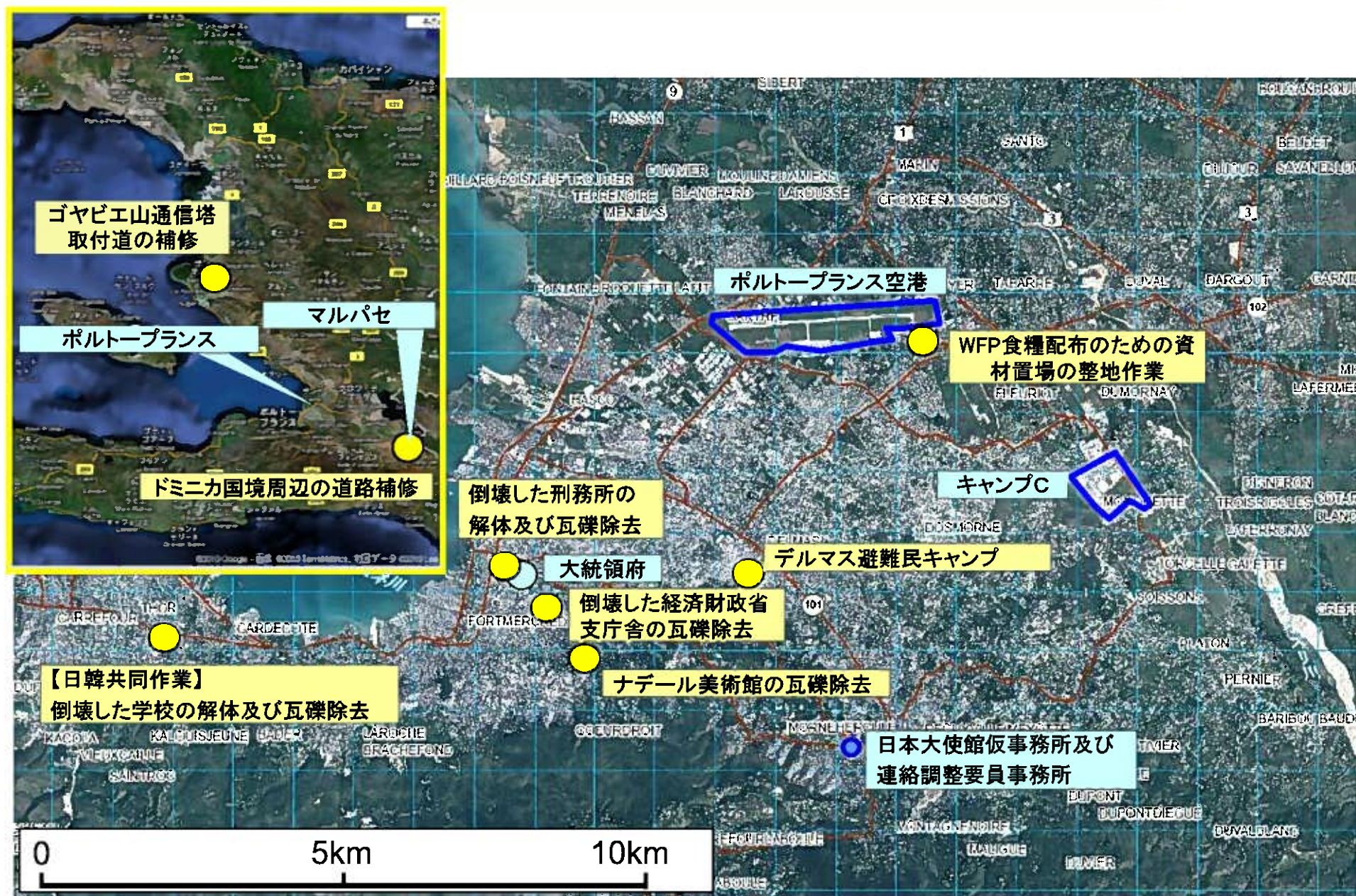
ハイチPKOにおける自衛隊部隊の活動状況

これまでに実施してきた活動など

- ① 国連世界食糧計画(WFP)食糧配布のための資材置場の整地作業 (現地2月16日)
- ② ナデル美術館の瓦礫除去作業 (現地2月22日～3月19日)
- ③ マダン・ガノ運河の瓦礫除去作業 (現地3月25日～3月26日)
- ④ 他国が使用する国連宿営地の造成作業 (現地2月24日～3月29日)
- ⑤ パキスタン部隊のためのコンテナ移動 (現地4月3日)
- ⑥ ゴヤビエ山通信塔取付道の補修 (現地3月29日～4月5日)
- ⑦ 倒壊した経済財政省支庁舎の瓦礫除去作業 (現地3月24日～4月12日)
- ⑧ デルマス国内避難民キャンプ排水設備補修支援(現地4月7日開始、4月23日まで)
- ⑨ ドミニカ共和国との国境周辺の道路補修 (現地3月29日開始～5月29日まで)
- ⑩ 市内道路の瓦礫除去作業 (現地4月9日開始、4月22日まで)
- ⑪ 「MINUSTAH兵站施設拡張地域」の造成 (現地3月30日～4月2日、4月10日開始～4月下旬まで)
- ⑫ チャンブラン国内避難民キャンプの整地(現地4月19日開始、4月21日まで)
- ⑬ 国連施設の建物診断 (現地3月11日～4月9日)
- ⑭ 交通・公共事業・通信省(仮訳)支庁舎予定地の整地作業 (現地5月19日～5月21日)
- ⑮ 倒壊した刑務所の解体及び瓦礫除去 (現地5月26日開始、7月下旬まで)
- ⑯ 倒壊した税務署施設の解体及び瓦礫除去 (現地6月3日開始、6月下旬まで)
- ⑰ 倒壊した学校の解体及び瓦礫除去 (現地6月8日開始)【日韓共同作業】

など、本年6月時点で、30を超える事業を実施してきている。

主要な活動場所



現地における各作業の様子①



WFPの資材集積用地の整地



美術館の瓦礫除去



ゴミ・瓦礫の散乱する運河の様子



運河の瓦礫除去

現地における各作業の様子②



国連宿営地の造成



パキスタン部隊のためのコンテナ移動



経済財政省の瓦礫の除去

現地における各作業の様子③



ゴヤビエ山通信塔取付道の整備



経済財政省の瓦礫の除去



デルマス国内避難民キャンプ排水設備補修支援



現地における各作業の様子④

【倒壊した税務署施設の解体及び瓦礫除去作業】



作業開始前



解体終了後



がれき除去・整地完了後

ドミニカ共和国との国境周辺の道路補修作業 ⑤



○作業期間 3月29日～5月29日（作業日数52日）

○延べ作業人員 約1700名

○使用した車両・重機 20両

【内訳】

油圧ショベル×3、バケットローダ×2、ドーザー×2、トレーラ×4、高機動車×3、トラック×3、グレーダー×1、ロードローラ×1、セミトレーラ×1

○補修の意義

ハイチの首都とドミニカ共和国の首都を結ぶ幹線道路

近傍に湖があり、雨季には恒常的に冠水する上、迂回路が未整備であるため、国内の生産基盤が弱いハイチにとって物流上極めて重要。本施設作業は、本道路を必要物資の輸送路として活用しているMINUSTAHの活動の円滑化にも大きく貢献。

○ 本作業の実施については、ミュレ国連事務総長特別代表(MINUSTAH代表)、副事務総長特別代表、ハイチ政府関係者、近隣の住民代表などから謝辞と自衛隊部隊への賞賛の声が寄せられている。



【日韓共同作業】倒壊した学校の解体及び瓦礫除去(現地6月8日より開始)⑥



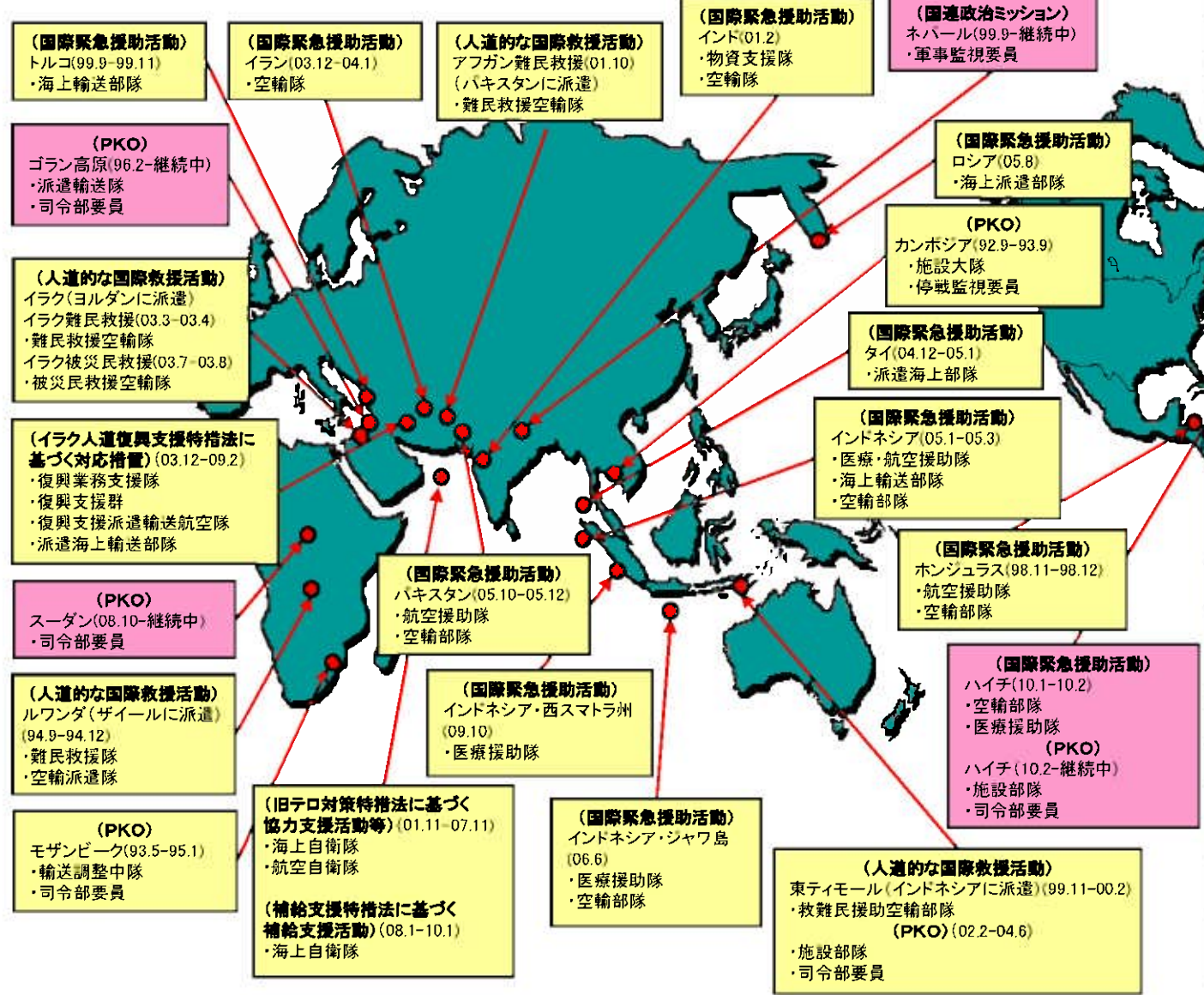
現地3月11日から開始した国連施設の耐震診断の様子（4月9日をもって終了）⑦



自衛隊による国際平和協力活動

(参考1)

- アジア、中東、アフリカ、中米など、約20の国際活動を実施
- のべ約3万人に及ぶ自衛隊員を派遣



92	カンボジア国際平和協力業務(92.9-93.9)
93	モザンビーク国際平和協力業務(93.5-95.1)
94	ルワンダ難民救援国際平和協力業務(94.9-94.12)
95	
96	ゴラン高原国際平和協力業務(96.2-)
98	ホンジュラス国際緊急援助活動(98.11-98.12)
	トルコ国際緊急援助活動(99.9-99.11) 東ティモール避難民救援国際平和協力業務(99.11-00.2)
00	
01	インド国際緊急援助活動(01.2) アフガニスタン難民救援国際平和協力業務(01.10) 旧テロ対策特措法に基づく協力支援活動等(01.12-07.11)
02	東ティモール国際平和協力業務(02.2-04.6)
03	イラク難民救援国際平和協力業務(03.3-03.4) イラク被災民救援国際平和協力業務(03.7-03.8) イラク人道復興支援特措法に基づく対応措置(03.12-09.2) イラン国際緊急援助活動(03.12-04.1)
04	タイ国際緊急援助活動(04.12-05.1)
05	インドネシア国際緊急援助活動(05.1-05.3) ロシア連邦カムチャツカ半島沖国際緊急援助(05.8) パキスタン国際緊急援助(05.10-05.12)
06	インドネシア国際緊急援助活動(06.6)
07	ネパール国際平和協力業務(07.3-)
08	補給支援特措法に基づく補給支援活動(08.1-10.1) スーダン国際平和協力業務(08.10-)
09	インドネシア国際緊急援助活動(09.10)
10	ハイチ国際緊急援助活動(10.1-10.2) ハイチ国際平和協力業務(10.2-)

(継続中)

自衛隊が現在取り組んでいる国際平和協力活動

(参考2)

ゴラン高原国際平和協力業務 (UNDOF)



- 根拠法 国際平和協力法
- 期 間 平成8年2月～
- 規 模 輸送部隊 43人
司令部要員 3人
- 活動内容
 - ・食品等の輸送
 - ・倉庫での物資の保管、道路等の補修、重機材等の整備

ネパール国際平和協力業務 (UNMIN)



- 根拠法 国際平和協力法
- 期 間 平成19年3月～
- 規 模 軍事監視要員 6人
- 活動内容
 - ・マオイスト及びネパール国軍の武器・兵士の管理の監視等

国連スーダンミッション (UNMIS)

- 根拠法 国際平和協力法
- 期 間 平成20年10月～
- 規 模 司令部要員 2人
- 活動内容
 - ・軍事部門の兵站全般の需要に関するUNMIS部内の調整
 - ・UNMISにおけるデータベースの管理

ハイチ国際平和協力業務 (MINUSTAH)



- 根拠法 国際平和協力法
- 期 間 平成22年2月～
- 規 模 施設部隊 約350人
司令部要員 2人
- 活動内容
 - ・がれき除去、難民キャンプ建設用地の整地等